

研究所だより

第472号
2024年 6月11日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“ てるてる坊主 てる坊主 あした天気にしておくれ

いつかの夢の 空のように 晴れたら金の鈴(すず)あげよ ”

『 てるてる坊主 』 1921年(大正10年) 童謡・唱歌



～アジサイの花が色鮮やかに咲いています！～

気象庁は、5月21日(火)に沖縄、奄美地方が梅雨入りしたとみられると発表しました。沖縄地方の梅雨入りは平年より11日遅く、昨年より3日遅くなっているようです。そして、6月9日(日)には四国地方が梅雨入りしたとみられると発表がありました。平年より4日、昨年より11日遅い梅雨入りだそうです。今年も長雨の季節が始まりましたね。

6月の暦の上では、5日が実の殻がついた芒(のぎ)のある麦や稲など穂の出る穀物の刈り取りや田植えを始める時期と言われる「芒種」、21日が1年で昼が最も長く、夜が短い「夏至」となります。

6月には各学校でプール掃除やプール開きが行われ、本格的に水泳の授業が始まります。これから暑くなってくると川や海へ行く機会が増えてきます。「自分の命は自分で守る」を合い言葉に水難事故防止に努めていただきたいと思います。

☆第1回教育支援コーディネーター連絡協議会(あすなろネットワーク)開催☆

5月27日(月)に2024年度第1回教育支援コーディネーター連絡協議会(あすなろネットワーク)を開催しました。

第1回連絡協議会は、新年度最初の会で新しい先生方が多いこともあり、初対面の硬さを揉みほぐすために小松SCの指導の下バースティリング(アイスブレイク)を通して楽しく自己紹介を行い、心が揉みほぐれたところで岡野所長よりご挨拶をいただきました。続いて渡会研究員から「あすなろネットワークの歴史や目的、組織、昨年度の取組、県・市の不登校・欠席の現状、欠席実態調査、あすなろネットワーク担当者としての役割等」について説明、協議を行いました。そして、年間計画については4回の開催を確認し、2・3回目は講師招聘、4回目は昨年同様アンケート形式で行うことを確認しました。最後に小松SCから新学期を迎えての子どもの様子・チェックポイント、園児・児童・生徒への関わり方や「個別指導」「集団支援」についてワンポイントアドバイスを示していただきました。

〔所長挨拶〕



〔小松SC講話〕



〔笑顔いっぱい バースティリング〕



☆第1回教育研究所運営審議会開催☆

6月6日(火)に2024年度第1回教育研究所運営審議会を開催しました。本年度の役員選出と事業計画(下記事業計画参照)についての説明・質疑、意見交換を行いました。

役員として、会長に矢野川 清さん、副会長に永野 美華子さんが選出されました。事業計画については、関係機関と連携しながら取り組んでいきます。

〈2024年度要覧より〉

＝本年度の主な事業＝

(1)教職員の資質向上の取組

【補助事業】

- ①教育研究推進事業：教育研究集会(教研活動)の運営：8部会
(組織教研4/17・一日教研8/7・半日教研11/6・総括教研各部会で設定)
- ②教育研究活動事業：研究協力校(2校：三崎小・清水中)
- (2)転入教職員研修会(地域学習会)の開催(年2回：①5/21 ②8/22)
- (3)調査研究の推進
 - ①小・中・高をつなぐ、「ジョン万次郎」の生き方を軸としたふるさと教育の調査研究に努める。
 - ・ふるさと教育に関する会議への参加
 - ・小中高連携の推進(総合的な学習の時間の授業への参加)
 - ・カリキュラムの研究、開発(中学校の総合的な学習の時間)
 - ・市内小中学校との連携、連絡、訪問
 - ②学力向上検討委員会(連携・支援)
- (4)豊かな心と健やかな体の育成の取組
 - ①定期的な学校訪問
 - ・児童生徒の実態を把握し、SSW(スクールソーシャルワーカー)、ORSC(アウトリーチ型スクールカウンセラー)、YCC(ヤングケアコーディネーター)と連携を図りながら具体的な方策を探り、支援を行う。
 - ②教育支援コーディネーター(あすなろネットワーク)連絡協議会の開催(年4回)
 - ・第1回5月27日 あすなろネットワーク、年間計画についてと小松SCの講話
 - ・第2回8月27日 講師：原 由香校長(中村特別支援学校)
「個別的教育支援計画・指導計画・引き継ぎシート等について講義・演習」
 - ・第3回11月予定 講師招聘(調整中)「事例研修」
 - ・第4回アンケート形式で実施
 - ③適応指導教室「あすなろ教室」への支援
- (5)情報教育に関する事業(HPの更新等)
 - ・GIGAスクールサポーターと連携して教育センター・教育研究所のHPの更新に取り組む。
- (6)資料収集に関する事業
 - 図書・教材などの購入・整理・活用等を図る。
- (7)刊行物
 - ①『研究所要覧』の発行
 - ②『清水の教育』の発行
 - ③『研究所だより』の発行
- (8)教育研究所運営審議会(年3回)
 - ・第1回6月6日 2024年度事業計画について
 - ・第2回11月予定 // 前期事業実績について
 - ・第3回3月予定 // 事業実績について
- (9)高知県教育研究所連絡協議会(年2回)
 - ・第1回春季教育研究所連絡協議会(5/22 かわい会議)
 - ・第2回秋季教育研究所連絡協議会(11/29 いの町大会)



＝研究協力校（三崎小学校・清水中学校）の紹介＝

三崎小学校、清水中学校の研究テーマ・概要について紹介します。

【三崎小学校】

1. 研究テーマ

地域の特色を生かし『地域との連携・協働』による自立をめざした児童の育成

2. 研究の概要

第3期高知県教育振興計画の6つの取り組みの基本方針の一つである、「地域との連携・協働」及び土佐清水市教育振興基本計画Ⅲの6つの取り組みの基本方針の一つである、「地域との連携・協働」を推進する為、総合的な学習の時間や社会科等の時間を中心としてふるさと学習に取り組み地域の方との豊かな出会いを通して地域の方の温かさや自然を再発見し、児童の自立を目指す。

『目標』

- ① 地域の人達との交流や自然の中での体験活動を通じて、歴史や課題を理解し故郷を愛する心情を育てる。
- ② 「山・川・海の学習」を通じて地域や文化について学び、理解を深める。
- ③ 森林の持つ意義と大切さを学び、これからの環境について考える。

『活動計画』

- ・校内及び周辺環境整備（上級生・地域の方々・保護者）
- ・シュノーケリング体験（サンゴ生態学習）・川の生物調査・間伐体験・グラスボート乗船・ガイド体験等。学校周辺の海・川・山の学習の一環として体験学習をし、地域の豊かな自然と生き物に触れ環境を大切に学習（意識化）（高）
- ・潮だまりの観察・貝の学習・海草の学習・ビーチコーミング・サンゴの学習（中）
- ・夏休み期間中に各地区会で子どもと大人による川清掃等
- ・海洋館見学：海洋生物 生態を学習（全）
- ・田植え（中・高）、稲刈り（中・高）、精米 餅つき大会（全）を通して、食物の恵みや山と川のつながり学習
- ・フィールドワーク…ビニールハウス、土佐食、ケンピ工場等地域の工場や施設の見学や石碑の学習
- ・ディサービスへの訪問。（1年、2年、5年、6年）
- ・高齢者の方への絵手紙の発送（全）



〔4/26 田植え〕

子どものうれしい一言

「皆で協力すればできないことはない！」



【清水中学校】

1. 研究テーマ

「グローバル人材育成事業を軸とした教科横断的なカリキュラムの研究」

～「目的・場面・状況」を意識した課題設定と言語活動を位置付けた単元構想とは～

○研究テーマ設定の理由

本校は昨年より「高知の魅力発信グローバル人材育成事業」の指定を受け、外国語科を中心として研究を推進している。本指定の趣旨の中には、「今後、グローバル社会の中でさまざまな課題の解決を目指す、文化や言語の異なる人々と協働できるコミュニケーション能力を児童生徒が身につけ、英語で自分の意見を発信することが求められる」とあり、これは本市が基本理念として掲げる生徒像と重なる。

目指す生徒像の実現に向けては、全教科の学びを通して資質・能力を育成する必要がある、それが下支えとなって英語科における発信力が向上していくと考える。教科横断的な視点でカリキュラムを見直し、全教科で目的意識や問いを持って生徒が自ら学べる単元を構想することにより、生徒の学力を向上させたいと考え、テーマを設定した。

2. 研究の概要

(1) 研究内容

- ①英語科を柱としたカリキュラムマネジメント
- ②各教科における課題設定の工夫（「目的・場面・状況」を意識した単元構想）
- ③教育活動全体を通じた発信力の育成



(2) 研究体制

- ①教科会及び教科主任会を通じた実践研究
- ②英語科連携教員を中心とした指定事業の研究推進
- ③自校の研究推進委員会及び三部会（学力向上・仲間づくり・総合的な学習）における取組の進捗管理

(3) 研究計画

- ①西部教育事務所より指導主事を招聘して校内研修を実施し、指定事業に係る共通理解を図るとともに、研究の方向性を明確にする。
- ②英語科における単元構想及びCan-Doリスト活用、評価の充実に関する研究を推進する。
- ③教科会（週1回以上）及び教科主任会（月2回）における情報共有を継続し、進捗を管理する。
- ④指定事業に係る公開授業を通じた授業研究を行う。
 - ・英語科教員の他地域への派遣
 - ・自校の授業づくり講座への全教員参加
 - ・小中高合同公開授業への全教員参加
- ⑤長期休業中の校内研修において、英語科を柱とした教科横断的なカリキュラムの検討を行い、次学期以降の取組改善につなげる。
- ⑥各種コンクール等への積極的な参加を通して、発信力の育成に努める。
- ⑦研究成果を積極的に発信し、生徒及び教員の自己肯定感を高めるとともに、効果的な取組の普及を図り土佐清水市内の小中高における外国語授業の充実を努める。

《お知らせ》～DVD:「防災」「情報モラル」「LGBTs(性的指向と性自認)」～

1. 「釜石の軌跡～子どもたちが語る3.11～」(アニメ) [49分]
2. 「どこに ひなんすればよいの?南海トラフ地しん 大つ波がくる」 [19分] (中高学年)
3. 「小学生のための情報モラルDVD教室」
 - ・第1巻 ネットとルールとマナー 相手の気持ちを考える [20分]
 - ・第2巻 ネット被害にあわないために ネットの先はおとなの世界 [22分]
4. ①「LGBTsの子どもの命を守る学校の取組①危機管理としての授業の必要性」 [38分]
- ②「LGBTsの子どもの命を守る学校の取組②当事者に寄り添うために～教育現場での落とし穴～」 [38分]